

第四学年〇組 道徳科学習指導案

指導者 岡嶋 登

主題名 公平なたいどとは C [公正, 公平, 社会正義]

「誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接すること。」

教材名 「決めつけないで」 (日本文教出版4年生)

指導観

- 本学級の子供たちは, これまでに, 休み時間の遊びに分け隔てなく友達を誘ったり, 学習の中で苦手なことを克服しようがんばる友達を分け隔てなく励ましたりすることができるようになってきている。そこで, 不公平な態度が周囲に与える影響について考えたり, 不公平さが人間関係や集団生活に支障をきたし, いじめにつながることを理解できるようになったりするこの期に本主題を取り上げる。そして, 誰に対しても分け隔てをしないで公正, 公平に接することの大切さを考えることができるようにする。このことは, 今までの自分自身のよさや課題を見つめ, 自分の成長につながる生き方についての考えを深める子供を育てる上からも意義深い。
- 公正とは, 他との比較なしにそれ自体が正しく, 集団や社会にとって不正やごまかしがない取り扱いのことである。公平とは, 2つ以上の対象に対して, 自分の好き嫌いや私心にとらわれず, 思いやりの心をもってものがとが偏らないようにすることである。社会正義とは, 人として行うべき道筋を社会にあてはめた考え方である。本主題に関しては, 低学年において, 自分の好き嫌いにとらわれないで接することについて学習してきている。本主題では, これらの上に立って, 誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接することの大切さを理解できるようにする。このことは, 高学年における, 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく, 公正, 公平な態度で接し, 正義の実現に努めることの学習へと発展していく。
- 本主題の指導にあたっては, 公平に接することは, 偏った見方や考え方で他者を決めつけずに, 他者の思いや努力に目を向けることで集団内の健全な関係につながるということがわかり, 誰に対しても分け隔てなく振る舞おうとする態度を育てることをねらいとしている。そのために, 教材として「決めつけないで」を取り上げる。主人公の「わたし」と学級の友人たちが人前で話すことが苦手なちさとは学習発表会の劇の主役はできないだろうと決めつけてしまうことから始まる。しかし, そのちさとが放課後の教室で額に汗を流して練習する姿を見たことをきっかけに, わたしは, ちさとに対する自分の見方や考え方を恥ずかしく思い, ちさとが主役に立候補した時に学級のみんなからの無理だよという決めつけに対して, 学級全体の前でちさとを主役に推薦し, ちさとへの学級全体の見方や考え方が変わっていく話であり, 誰に対しても公平に接する大切さを考えることのできる教材である。特に本時指導にあたっては, まず, 導入段階では, 事前アンケートと教材場面を提示し, 公平の価値への問題意識をもつことができるようにする。次に, 展開段階では, ちさとを推薦するわたしの気持ちの変化と公平な態度が与える集団への影響について話し合うことができるようにする。最後に, 終末段階では, 自分の生活や経験を振り返り, 公平に接することに関わる自分自身のよさを見つけることができるようにする。

計画 (1時間+課外)

- 日常生活における公正, 公平に関わるこれまでの考え方を整理し, 傾向性を捉えさせる。————— 課外
- 1 教材場面を基に, 「誰に対しても分け隔てをせず接するよさ」について話し合わせる。————— 1本時
- 日常生活における決めつけずに接する子供のよさを称賛し, 意欲の継続を図らせる。————— 課外

本時 令和2年5月〇日 (〇曜日) 3校時 4年〇組教室において

- ねらい** 1 公平に接することは, 偏った見方や考え方で他者を決めつけずに, 他者の思いや努力に目を向けることで集団内の健全な関係につながるということがわかり, 誰に対しても分け隔てなく振る舞おうとする態度を育てる。
- 2 教材「決めつけないで」において, ちさとを推薦するようになったわたしの心情の変化と, 公平に接することの集団への影響について仮定的に考える対話活動を通して, 公正, 公平の価値を追求できるようにする。

準備 読み物教材, 教材流れ図, 挿し絵, 学習プリント

過程

段階	学習活動と予想される子供の反応	教師の具体的な支援
導入	<p>1 事前アンケートの結果と教材場面を基に、これまでの経験を想起し、決めつけずに接することについて話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【決めつけないで接した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに注意した。 ・遊びにみんなを誘った。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【決めつけて接した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○さんは△が得意。 ・□さんは◇が苦手。 </div> </div> <p style="text-align: center;">【だれにでも公平に接する よさは何だろうか？】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>だれにでも公平にせつする自分を見つめよう。</p> </div>	<p>○公平、不公平についての問題意識をもたせるために、公平に関わる事前アンケートの結果と、ちさとには劇の主役は無理だと決めつけてしまった「わたし」の教材場面を提示する。</p>
展開	<p>2 教材「決めつけないで」を基に、わたしの気持ちや考えについて話し合い、公正、公平の価値を明らかにする。</p> <p>(1) 教材の範読を聞き、わたし、ちさと、よう子の様子やそれぞれの思いを確認し、中心場面を焦点化する。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">教科書挿絵</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>【ちさと】 人前は苦手だけど主役をしたい。</p> <p>【わたし】 ちさとには主役はできない。(同調)</p> <p>【周り】 ちさとに主役は無理だ。(決めつけ)</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>わたしはなぜ、ちさとを主役に推薦するようになったのか。</p> </div> <p>(2) ちさとを推薦するようになったわたしの心情の変化と集団への影響について話し合い、公平のよさを明らかにする。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">教科書挿絵</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>【ちさとを推薦するわたしの思い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も練習していた。(努力の承認) ・決めつけはよくない。(偏見の解消) </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【決めつけないことの集団への影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の決めつけがなくなり、自信をもって生活できる。 ・友達の思いやがんばりを認められる集団になる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>友だちを決めつけずに、友だちの思いやがんばりを認められる集団にしようとする自分。</p> </div>	<p>○教材場面を把握し、追求場面を明らかにするために、登場人物それぞれの思いや人間関係を示しながら3人の挿絵を提示したり、主人公「わたし」の心情変化を示しながら流れ図を提示したりする。</p> <p>○多様な考え方を基に、公平の価値に納得させるために、ちさとが立候補した時のちさと(教師)、わたし・よう子(代表児童)、集団(学級全体)での役割演技を設定したり、「もしも、みんなの意見でちさとが主役に選ばれていなかったら、今後どんな学級になっていくでしょう。」と発問したりする。</p>
終末	<p>3 これまでの自分の感じ方や考え方、行い方を振り返り、公平の価値に関わる自分のよさを見つける。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・得意や不得意で決めつけてしまったことがあるから、これからは友達のために公平にしていきたい。(種) ・友達を決めつけない事でいい学級をつくりたい。(花) ・行事で役割を決めるときに、本人の思いや努力に目を向けたことがあるから、そういう自分を続けたい。(実) </div>	<p>○「自分のよさ見つけ」をさせるために、自分のよさの根拠を引き出す観点として(種)(花)(実)を提示したり、「同じような経験はありませんか。」と発問したりする。</p>